



## レシピ #002 子どもが動き出すまで待つ 「答えは言わないんです！」

R3.5.19



〔安達地区〕

認定こども園 年長児の保育より



保育のワンシーン



「小さい子たちは、ぼくたちが守る！看板を作ろう！」

桜の木の幹で、真っ赤な虫を見つけたA君。「赤いから毒があるんじゃない？」と凶鑑で調べ出すB君は、ヨコヅナサシガメという危険な虫であることに気がきました。年長児たちは、小さい子たちが近づいたら危ないと、看板を作ることにしました。雨が降りそうなので、看板は、木の幹に直接ガムテープで丁寧に貼られました。

ところが、お昼寝が終わったころ、看板が落ちていた〈ガムテープで接着する姿〉のです。大事件です！子どもたちは、気になったまま帰宅しました。

次の日の朝、いちばんに登園したA君は、「C君ならきっといい考えが思い浮かぶに違いない！」と、C君の登園を待ちました。しばらくしてC君が来ましたが、よい考えは見つかりません。そこへ来たDちゃんが、「ひもで結べばいいんじゃない。だって家で小さい妹に遊ばせたくない危ないおもちゃは、お母さんがひもで結んでいたよ。」と話し出しました。みんなに褒められたDちゃんからは、笑顔があふれました。早速、看板を木の幹にひもでぐるぐる巻きにしました。これで安心！——しかし、看板とひもの接着がガムテープとのことです。



ここがオススメ！



この園では、担任の先生だけでなく園長先生、副園長先生、そして隣接する小学校の校長先生までが、「手作りの看板が外れてしまったこと」を知っていました。情報共有しているチームワークのよさに感心するとともに、安心感を覚えました。

事後研究会では、「本当に考えさせたい答えは、言わないんです。」と園長先生。次は、ガムテープが劣化して、看板が外れるでしょう…と続けます。

子どもを信じて待つことの大切さを、改めて考えることができた一日となりました。失敗させないように、あるいは時間がないことを理由に、つつい手を出し、答えを言うてしまうことはありませんか。保育も授業も同じだと感じました。

